

活動名 郷土料理で繋ぐ健康な地域づくり	団体名	一般社団法人 農・食・医 同源研究センター
	地域	広島県広島市
	代表者	センター長 香川 治子
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>郷土料理を通して老若ともに健やかに生きる地域づくりへと繋げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児から高齢者まで異年齢の男女が集い、地元産食材を使って郷土料理を作る。 2. 参加者皆で、その料理の歴史・特徴を学ぶ。 3. 教室で習った料理を自分に合うかたちに変え、工夫して日々の食卓に積極的に摂り入れ、健康な食生活へと繋げる。 4. 調理は化学実験に似る。いろいろな場面で自然現象の不思議に気づき、出てきた疑問を自分達で解くことに挑戦する。ともに学ぶ場づくりを、ともに健やかに生きていく地域づくりへと繋げる。 <p>◆実施時期 2014年4月20日～2015年3月10日 場所: ①安芸高岡市美土里町美土里小学校 ②③安芸高岡市吉田町郷野小学校(2回) ④広島市東区二葉公民館 ⑤安芸高岡市向原町農村交流館やすらぎ ⑥広島市安佐南区祇園公民館 ⑦豊田郡大崎上島町大串老人福祉センター ⑧広島市安芸区瀬野農場</p> <p>◆参加人数 ①子供5名・大人5名:計10名 ②子供7名・大人15名・幼児2名:計24名 ③子供10名・大人10名:計20名 ④大人16名 ⑤子供2名・大人20名・幼児3名:計25名 ⑥子供1名、大人11名、大学生4名:計16名 ⑦大人5名、高校生1名:計6名 ⑧大人9名、大学生1名:計10名 参加総人員:127名</p>		



安芸高岡市吉田町郷野小学校調理室

羽釜で炊いたご飯は、地元産の古代米を入れたので、少し紫色がかっていて、児童の間で、いつのまにか「サンフレッチェご飯」と呼ばれる。地元プロサッカーチーム「サンフレッチェ」の練習場が町内にあり、ユニフォームの紫色とともに、地元住民に親しまれていることが伝わってくる。



広島市安佐南区祇園公民館実習室 餅つきの順番を待つ子どもたち



搗いた餅が来るのを待つ子どもたち。卓の上にビニールシートを敷き、餅とり粉を撒き、「さあ、丸めよう」と準備OK



豊田郡大崎上島町海岸の岩場でイワガキを採集するところ。自家製の特殊な器具を使って牡蠣を岩から離し採るのを教わる

◆実施に伴う効果

活動の具体的内容の共に学習したこと以外を参加者の感想文から一部抜粋

寄せられた子供の感想文:

- 野菜を使ったクッキーや食べ物の科学を教えてくださいありがとうございました。
- でんぶんにヨウそえきをかけると青くなるというのがすごかったです。
- 野菜クッキーのざい料はカボチャとニンジンを選んだのにパサパサしたピーナッツ味で、しかもあんまりおいしくなかったです。
- 野菜クッキーを作るときは楽しかったです。
- だいこんとじゃがいもで水アメがつくれるのをはじめてしました。
- 勉強もしながら野菜クッキーを作っておいしかったです。
- 私はピーマンのクッキーを作りました。あまり味がしなかったけど、簡単に作る事ができたので、家でも作ってみたいです。
- わたしははじめて野さいクッキーをつくりました。玉ねぎを入れて作りました。こねるのがむずかしかったです。
- 楽しかったです。今日はありがとうございました。
- 今日はむずかしかったけどクッキーを作るのが楽しかったです。たまねぎクッキーはパサパサしていました。においは、いいかおりました。
- 昼ごはんはおしるがおいしかったです。
- ごはんはあじがしませんでした。でも、もしおをかけたならおいしかったです。
- 家でつくってみたいです。
- 自分は郷土料理を全然知らないな、と思いました。
- 今日の料理は味が薄かったけれど、料理の材料の味がわかって食べるのが楽しかったです。
- 家の食事の味付けはすごく濃いです。普段食べていて普通だと思っていたので、とても驚きました。
- また機会があれば、積極的に参加したいと思います。

寄せられた大人の感想文:

- 自分の栽培した物を食べていただけることはうれしく、ありがたく、幸せであり、感謝の気持ちでいっぱいです。
- 作って食べるだけでは味気ない気がする。郷土料理を広めるために、パンフレットなどを作り配布する活動に展開したらよいのではないかと。
- みんな仲良く、和気あいあいとしてよかった、と思います。
- 若い人達は食べられる部分を無駄に捨てて調理している。「もったいない世代」は、若い世代に食べられることをしっかり伝えるのも郷土料理の伝え方のひとつにしましょう。
- 今日は大変楽しい時間と新鮮な野菜料理を頂き、有難うございました。
- 稲のこなど興味深いお話をきかせていただき、資料も拝見させていただき、優しい方々とお会いできてとても楽しいひとときでした。
- テーマを決めて、そのテーマに合わせた料理やお話をするといいのでしょうか？
- 郷土料理と合わせ季節折々の歌(童歌、童謡、唱歌など)、今はもう忘れ去られた歌、現代っ子は全く知らない歌などを郷土料理と合わせて後ろの世代に伝えていくのもよいのではないのでしょうか。
- お料理について、美味しさより、体のことや食べ物を提供してくださる方を第一に考えていらっしゃるのですね。心をこめて作られた食材を大切に、体に良い食事作りを頑張ります。
- 今まで、気がつかなかったことが見えてくるようになりました。これからも学びを深めていきたいです。

◆苦勞した点

- 集客に一番苦勞しました。
- 外部への PR はお金がかかり、実際には難しいので、主に口コミと当センターのホームページでの PR になりました。
- 小学校で開催したときを除き、前日や当日の参加取消が各回数名ありました。食材を既に購入しているので負担になりましたが、取消料はいただきませんでした。ノロウイルスやインフルエンザなど感染症の疑いがあるとき無理して参加されると、より困った事態に繋がるのをお互い恐れています。また、高齢者を介護している方が多いことが分かりましたが、被介護者の急変がよくあり、そのための欠席もかなりあり、昨今の世情の縮図を見る思いでした。
- 当センター事務局員のほとんどは複数の地域活動に関わっており、他団体の活動と重なることが多く、当方の活動との調整が大変でした。
- 家に引きこもりがちなのはかたくなになりがち。そうした人達を誘い家の外で一緒に活動する良い方策がなかなか見つかりません。
- 他人との交流、一緒に料理することの利点などが分かっているけど、実際に地域の人に参加してもらうには時間がかかりそうです。少しずつですが、参加者の層が広がり、男性や子供の参加が増えていきます。

◆今後の課題・発展の方向性

- 活動をしていて、和食のよさがあまり伝わっていないことが分かりました。今年度は、その点を踏まえて料理教室を開いています。
- おもてなしの料理は人気がありますが、普段の食事はいい加減にされがちです。今年度は、特に、普段の料理のなかに、意識して健康に配慮した要素を多く取り入れることを強調して教室を開いています。
- 郷土料理には保存食となる物が多い。広島は昨年大災害にあい、あらためて防災・被災時に対応できる食の必要性を感じました。今年度は、そうした点を踏まえた料理教室を展開しております。
- 菊芋を県内のあちこちで見ますが、料理に取り入れられることはあまりありません。栽培が易しいので、今年度は野菜として生かすレシピをいろいろ考案して、普及させる活動に繋げています。

◆活動を終えての感想・意見等

- 活動はまだ終わっておらず、本年度へと受け継がれております。昨年度の反省を生かしていきたいと思っております。